

Ⅱ. 教職に関する専門教育科目

教職論 Teaching Profession

全学科 1年 後期(集中講義) 2単位

担当教員 藤井 美保

1. 概要

●授業の目的

教員免許法に規定されている「教職の意義等に関する科目」として、教員の役割および職務内容について講義を行い、進路選択に資する機会を提供する。

●授業の内容

ビデオ教材等により教員をとりまく現代的状況についての理解を促しながら、教職の意義や教員の役割、職務内容等について歴史的視点や国際的視点をまじえて解説する。また、教師の役割認知過程をたどることによって、生徒や保護者、同僚、地域住民等との関係の諸相を明らかにし、教師に求められる資質能力について考える。

2. キーワード

学習指導 生徒指導 聖職観 労働者観 専門職論 保護者同僚 地域住民 教師文化

3. 到達目標

- ①現場の教員をとりまく現実を知るとともに、教職の意義や教員の役割等について理解を深める。
- ②生徒や保護者、地域住民等との関係について考え、教員に求められる資質・能力について理解する。
- ③教職に対する意欲や適性を受講生自らが認識し、めざすべき教師像を各自が描けるようになる。

4. 授業計画

- 1回 イントロダクション -揺れ動く現代の教師役割-
- 2回 教師を取り巻く現実
- 3回 教師の役割 -学習指導-
- 4回 教師の役割 -生徒指導-
- 5回 教師役割の歴史の変遷
- 6回 専門職としての教師 -教職は聖職か?-
- 7回 専門職としての教師 -労働者としての教師-
- 8回 専門職としての教師 -専門職とは何か-
- 9回 教師の役割認知過程 -教師役割の形成-
- 10回 教師の役割認知過程 -役割相手としての生徒・保護者・同僚・地域住民-
- 11回 教職の特性
- 12回 教師に求められる資質・能力
- 13回 教師役割の国際比較
- 14回 全体のまとめ -理想の教師像とは-
- 15回 試験

5. 評価方法・基準

平常点(リアクション・ペーパー等、40点)および筆記試験の点数(60点)により総合的に評価し、60点以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

集中講義であるから、全授業への出席を原則とする。

7. 教科書・参考文献

●教科書は指定しない(必要に応じて資料を配付する)

●参考文献

- 油布佐和子『転換期の教師』日本放送出版協会 375.9/H-2
 山崎準二『教師という仕事・生き方』日本標準 374.3/Y-1
 永井聖二・古賀正義『<教師>という仕事=ワーク』学文社 374.3/N-3

教育原理 月曜1限

(Principle of Education, the 1stperiod, Monday)

全学科 1年・2年 前期 選択必修 2単位

担当教員 東野 充成

1. 概要

●授業の目的

教育職員免許法に規定されている「教育の理念並びに教育に関する歴史および思想」に関して講義を行い、次の点を目標とする。

- ①教育を広く人間全体の営みの中に位置づけ、多角的に考察すること。
- ②子どもの発達・学習に関わる様々なエージェントの役割について理解するとともに、現代社会における子どもの育ちと学びについて理解を深めること。
- ③現代の学校教育を歴史的、国際比較的に見直し、その役割や意義とともに、課題についても探求できること。
- ④以上の点を踏まえて、自らが志向する教育観や子ども観を構築し、表現できるようにすること。

●授業の位置付け

授業は、大きく次の3つの柱からなる。

- ①教育には様々な近接する概念が存在する。本授業では、教育にまつわる多様な概念を解説した上で、教育的人間関係や教授法などの変遷に見る教育思潮、教育観などを講義する。
- ②子どもという存在は決して自明のものではなく、時代や空間が異なれば、子どもに対する考え方や発達のあり方も大きく異なる。本授業では、歴史的、通文化的な子どもや発達の多様性を踏まえたうえで、現代社会における子どもの発達・学習の課題等について講義する。
- ③学校教育は現在、教育の中心的な場となっているが、その役割や課題とはいかなるものなのか。現代の学校教育を歴史的、国際比較的に相対化し、その課題や役割について講義する。

2. キーワード

子ども観・教育観 生涯発達・生涯学習 初等教育・中等教育 職業教育 教育問題

3. 到達目標

- ①自らの子ども観・教育観を深め、志向する教育制度や教育実践を表現できるようにする。
- ②多角的な営みとしての教育について、理解を深められるようにする。

4. 授業計画

授業は講義形式でおこなう。配布資料や視聴覚教材等を適宜使用する。

- 1回 「教育」及びその近接概念について
- 2回 教育的人間関係の基本構造と教育者の条件
- 3回 教授法の変遷に見る教育観
- 4回 「子ども」と「大人」の思想史
- 5回 教育と子育て
- 6回 諸外国及び日本の学校教育制度の概要
- 7回 近代日本の教育の歴史と法制
- 8回 初等教育の現状と課題
- 9回 中等教育の現状と課題
- 10回 高等教育の現状と課題
- 11回 家族・学校・地域の連携
- 12回 不登校といじめ問題
- 13回 児童虐待と少年犯罪
- 14回 現代教育の再構築-情報化社会と生涯学習-
- 15回 試験

5. 評価方法・基準

小レポート 30%
 期末テスト 70%

期末テストは論述式で行う。また、小レポート作成に当たっては、論理的に文章が展開されているかを重視する。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

- ①教員免許(数学)取得希望者は必ず履修すること。教員免許(工業)取得希望者は、履修することがのぞましい。
- ②講義内容の十分な理解を得るため、下記の参考文献を各自読むこと。
- ③授業時間外には新聞等に目を通し、教育に関する最新の情報を摂取すること。

7. 教科書、参考文献

- 教科書は使わないが、そのつど参考文献を指示する。
- 参考文献
柴田義松他 『教育原論』学文社 371/S-13
田嶋一 『やさしい教育原理』371/T-4

8. オフィスアワー

研究室扉の掲示を参照のこと。なお、授業に関する質問等は、下記のメールアドレスで随時受け付ける。
higashi@dhs.kyutech.ac.jp

教育心理学 Educational Psychology

全学科 1年・2年 前期 選択必修 2単位

担当教員 今村 義臣

1. 概要

●授業の背景

児童・生徒を指導・教育する立場にある者は、環境をコントロールし、子ども達が最大限の心身の発達を達成できるように援助する必要がある。そのためには人間の心のしくみの理解が必要である。心理学は、科学的な視点から人間の心のしくみに関する知識を授けてくれる学問であり、教育心理学は、その中でも教育的観点に焦点付けを行った知識を授けてくれる。

●授業の目的

ここでは、教育心理学で最低必要な知識である、発達、学習、学級集団、知能、人格・適応、および、障害児心理の諸知識を学習する。そこでは、随所に最近の脳科学で得られた知見を交え、脳を中心に据えた心の理解を深めていきたい。

●授業の位置付け

教育心理学は教職専門科目の中でも重要な科目の1つである。また、他の心理学の講義を同時に学ぶことによって、人間行動に対するより深い理解が得られるものと思われる。

2. キーワード

教育心理学、行動科学、認知科学、臨床心理学

3. 到達目標

教育心理学で最低必要な知識(発達、学習、人格と適応、障害児教育等)の習得。

4. 授業計画

- 1回 オリエンテーション
- 2回 発達1 ころ(脳)の基本的メカニズムを成長と発達の観点から学ぶ。
- 3回 発達2
- 4回 発達3
- 5回 学習1 学習の原理と学習指導について学ぶ。
- 6回 学習2
- 7回 学習3
- 8回 学級集団 学級集団を把握するための理論・方法を学ぶ。
- 9回 知能 知能のメカニズムについて学ぶ。
- 10回 人格と適応1 人格と適応の諸理論を学ぶ。
- 11回 人格と適応2
- 12回 人格と適応3
- 13回 障害児1 障害児の心理と教育について学ぶ。
- 14回 障害児2
- 15回 試験

5. 評価方法・基準

期末試験で評価する。
60点以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

配布資料は常に持参すること。ノートをとること。

7. 教科書・参考書

- 教科書
新教職課程の教育心理学 中西信男・三川俊樹編 ナカニシヤ出版 371.4/N-19
- 参考書
適宜紹介する。

8. オフィスアワー等

E-mail アドレス: gishin@std.mii.kurume-u.ac.jp

教育社会学 月曜1限 (Sociology of Education, the 1st period, Monday)

全学科 1年・2年 後期 選択必修 2単位
担当教員 東野 充成

1. 概要

●授業の目的

教育職員免許法に規定されている「教育に関する社会的、制度的又は経営的事項」に関して講義を行い、以下の点を目標とする。

- ①教育と社会の相互规定的な関係について理解する。
- ②教育制度を他の社会制度との関連の中で理解し、その役割や課題等について考察を深める。
- ③以上の点を踏まえて、現代の学校制度や学校経営の役割及び課題について理解する。

●授業の位置付け

授業は、大きく次の3つの柱からなる。

- ①教育は社会からいかなる影響を受け、また社会にいかなる影響を及ぼしているのか。階層、エスニシティ、ジェンダーといった社会学の基礎概念をもとに講義する。
- ②現代の教育制度はそれ単独で存在するのではなく、雇用制度や法制度、行政組織などとの関連の中で位置づけられる。このような、教育制度の構造、機能及び他の社会制度との関連について講義する。
- ③教育を取り巻く社会情勢や教育制度の構造などを踏まえて、現代的な学校経営のあり方について講義する。

2. キーワード

文化伝達・文化的再生産 エスニシティ ジェンダー サブカルチャー 教育制度・教育政策 学校経営・学級経営

3. 到達目標

- ①教育社会学の考え方を理解すると同時に、社会科学の基本的な概念についても理解できるようにする。
- ②教育という現象を他の様々な社会現象との関係の中で捉えられるようにする。
- ③教育という現象の理解を通して、現代社会・現代文化・現代学校教育に対する相対的な視点を獲得する。

4. 授業計画

授業は講義形式で行う。配布資料や視聴覚教材等を適宜使用する。

- 1回 文化伝達としての教育－育児としつけ－
- 2回 文化的再生産と教育－家族・階層・言語－
- 3回 エスニシティと教育－人種、民族、国家－
- 4回 ジェンダーと教育
- 5回 メディアと教育
- 6回 現代の子ども文化
- 7回 現代の若者文化
- 8回 少年非行の社会学
- 9回 学校文化・教師文化・生徒文化
- 10回 学力とカリキュラムの社会学
- 11回 学校教育と職業
- 12回 教育政策の変遷と現在
- 13回 学校経営の現代的課題（1）
- 14回 学校経営の現代的課題（2）
- 15回 試験

5. 評価方法・基準

成績評価

小レポート 30%

期末テスト 70%

期末テストは論述式で行う。また、小レポート作成に当たっては、論理的に文章が展開されているかを重視する。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

- ①教員免許（数学）取得希望者は、必ず履修すること。教員免許（工業）取得希望者は、履修することが望ましい。
- ②講義内容の十分な理解を得るため、下記の参考文献を各自読むこと。
- ③授業時間外には新聞等に目を通し、教育に関する最新の情報を摂取すること。

7. 教科書・参考文献

●教科書 特に指定しないが、参考書をそのつど指示する。

●参考文献

荻谷剛彦ほか著『教育の社会学』有斐閣 371.3/K-6

柴野昌山ほか著『教育社会学』有斐閣 371.3/S-8

8. オフィスアワー

研究室扉の掲示を参照のこと。なお、授業に関する質問等は、下記のメールアドレスで随時受け付ける。

higashi@dhs.kyutech.ac.jp

教育課程論 Curriculum Study

全学科 2年 前期（集中講義） 1単位

担当教員 堺 正之

1. 概要

今日のエ育課題と教育課程の関連をふまえ、教育課程の成立史及び基礎理論を類型化して解説する。次に、日本における小学校・中学校・高等学校の教育課程編成の基準である学習指導要領の構造と、これに基づいて実施されている現在の学校における教育課程を事例に即して考察する。

2. キーワード

学校 教育課程（カリキュラム） 教科

3. 到達目標

- ①各自が受けてきた学校教育の内容を教育課程という視点から対象化する。
- ②教育課程を構成する各領域の目標、内容、その現代的意義をふまえた指導の在り方について理解する。

4. 授業計画

- 1・2回 はじめに－学校教育をとりまく状況－
以下 教育課程総論
- 3・4回 教育課程とは何か ・語義／意義 ・領域／構造
- 5・6回 教育課程の変遷
- 7・8回 教育課程の類型
以下 教育課程各論
- 9・10回 教科（1）学習指導要領と教科の内容
- 11・12回 教科（2）中等教育段階における学習指導
- 13・14回 教科外の諸領域（道徳・特別活動・総合的な学習の時間）
- 15回 小まとめと質疑

5. 評価方法・基準

授業への出席、レポート等の提出、最終試験の成績を総合的に評価する。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

7. 教科書

田中耕治・水原克敏・三石初雄・西岡加名恵 著『新しい時代の教育課程』有斐閣 2005年 375/T-5

参考書

1) 山崎英則・片上宗二 編集代表『教育用語辞典』ミネルヴァ書房 370.3/Y-1

2) 文部科学省『中学校学習指導要領解説－総則編－』375.1

特別活動の指導法 Method of Extra-class Activities

全学科 2年 前期(集中講義) 1単位

担当教員 堺 正之

1. 概要

学校の教育課程を構成する領域として位置づけられる「特別活動」の歴史と今日的課題について、中等教育段階を中心としながら理解を深め、その指導原理とこれを運営してゆく際の基本的な問題について、具体的な事例をもとに考察する。

2. キーワード

学校 特別活動 学級活動(ホームルーム活動) 生徒会活動 学校行事

3. 到達目標

- ①日本の学校教育における特別活動の歴史的位置づけと、その今日的意義及びその指導原理についての理解を深める。
- ②中学校及び高等学校の特別活動の内容を構成する「学級活動(ホームルーム活動)」、「生徒会活動」、「学校行事」について、生徒が人間としての生き方についての自覚を深め、自己を生かす能力を養うための指導法を理解する。

4. 授業計画

- 1・2回 特別活動の歴史と今日的課題
- 3・4回 特別活動の目標・内容・方法的特質
- 5・6回 特別活動の特別活動の指導計画・実践事例(1)学級活動-中学校-
- 7・8回 特別活動の特別活動の指導計画・実践事例(1)ホームルーム活動-高等学校-
- 9・10回 特別活動の特別活動の指導計画・実践事例(2)生徒会活動
- 11・12回 特別活動の特別活動の指導計画・実践事例(3)学校行事
- 13・14回 特別活動と教科活動・道徳・総合的な学習の時間
- 15回 最終試験

5. 評価方法・基準

授業への出席、レポート等の提出、最終試験の成績を総合的に評価する。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

7. 教科書

相原次男、新富康史編著『個性をひらく特別活動』ミネルヴァ書房 375/M-16/8

8. オフィスアワー等

教育方法 Educational Method

全学科 3年 前期(集中講義) 2単位

担当教員 高田 清

1. 概要

●授業の目的

学校教育において、教師は子どもたちの豊かで主体的な学習活動・生活活動を指導していくが、その指導の方法技術の持つ独自な特質を学ぶ。さらに、学校における教育活動を構成していく原理としての教育課程論を学び、それをふまえて授業と特別活動の実践的な指導の原理を学ぶことを目的とする。

●授業の位置付け

学習者に伝えようとする(あるいはあるいは学習者が学ぼうとする)知識や技術等を、学習者の発達や興味・関心にどう適合させ、いかに授業を展開させるか、という問題について考えるのが教育方法(学)の課題である。したがって、この学問領域では「どのような教育内容を構成するか」、「それをどのような順序で、どんな材料を使って教えるか」、そしてさらに「教えた(学習した)結果をどう評価するか」という問いを含む。

2. キーワード

学習指導要領 授業記録 学力 評価

3. 到達目標

学校教育の構造と今日的教育課題を理解し、教育実践における指導と方法技術の基本を理解する。

4. 授業計画

- (1)教育と教育実践の方法技術
 - 1回 現代の子どもと教育の課題
 - 2回 教育実践とは何か
 - 3回 教育主体の原則と発達主体の原則
 - 4回 指導とは何か
 - 5回 教育実践における方法技術について
 - 6回 学校教育の構造と教育作用の構造
- (2)教育課程の編成の原理
 - 7回 教育課程とは何か
 - 8回 学習の指導と生活の指導
 - 9回 教育課程編成の原理
 - 10回 教科つくりと教材解釈
- (3)特別活動の指導原理
 - 11回 今日の子どもと特別活動の意義
 - 12回 特別活動の歴史
 - 13回 特別活動の指導原則
- (4)情報機器の利用
 - 14回 教育実践と情報機器
 - 15回 情報機器の利用

5. 評価方法・基準

レポートの結果(70%)と出席状況(30%)で評価する。60点以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

- ①基本的には講義だが、積極的な発言を期待する。

7. 教科書・参考書

●教科書

特に指定しない。適宜プリントを配布する。

●参考書

高田清『学校教育実践の理論と方法』コレール社 375/T-3

8. オフィスアワー等

生徒指導 Student Guidance

全学科 2年 後期(集中講義) 2単位

担当教員 大迫 秀樹

1. 概要

●授業の目的

この授業では「生徒指導、教育相談及び進路指導等」に関して講義を行い、以下の点について学ぶことを目的とする。

学校における教育活動は、教科指導と生徒指導に大別されるが、その最終的な目標は、生徒の人格の完成を目指すところにある。そのため、教科指導のみならず、生徒指導についての充実を図ることが重要である。そこで、いかにして、一人ひとりの生徒の個性の伸張を図りながら、同時に社会的な資質や能力・態度を育成し、現在及び将来において社会的な自己実現が可能となる資質・態度を育成していくのかといった視点から、教育活動について学んでいくこととし、その理解を深めていきたい。

●授業の位置付け

教育現場では、いじめや不登校、非行等の様々な問題が発生している。このため、教師には、生徒の心の問題を理解した上で、人格の健全な発達を促していくと同時に、不適応な問題行動に対しても適切に指導・援助していく技能が求められる。また、その領域の中には、進路指導も含まれる。これらの点について、講義と体験学習によって習得していく。

具体的には、生徒指導についての概要を把握した後に、生徒を理解するために必要な人格の基礎理論等について学ぶ。続いて、いじめや非行等の実際の問題行動について、事例等を通じて検討する。また、進路指導についての概要も学ぶ。さらに、具体的な対応について、カウンセリングの考え方や技法を中心に、小グループでの体験学習による実習などを通じて学ぶ。

2. キーワード

人格の発達 心理査定 いじめ 非行 不登校 進路指導 教育相談 カウンセリング

3. 到達目標

教員を志願するものが、人格理解のための基礎理論を学ぶとともに、カウンセリングの考え方についても学び、教育現場において適切な生徒指導が行えるようになるための基盤を習得する。

4. 授業計画

授業は講義形式でおこなう。ただし、一部体験学習(カウンセリング技法など)も取り入れる。配布資料を適宜使用する。

- 1回：生徒指導とは何か
- 2回：生徒指導の領域
- 3回：生徒指導の方法
- 4回：生徒理解 ① 人格の発達
- 5回：生徒理解 ② 発達の問題
- 6回：生徒理解 ③ 心理査定
- 7回：問題行動 ① いじめ
- 8回：問題行動 ② 非行
- 9回：問題行動 ③ 不登校
- 10回：問題行動 ④ その他
- 11回：進路指導とは何か
- 12回：進路指導の領域と方法
- 13回：カウンセリングの考え方
- 14回：カウンセリングの基礎技法
- 15回：まとめ

5. 評価方法・基準

受講態度および講義中に実施する小テスト等によって総合的に評価する。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

教員免許(数学)取得希望者は必ず履修すること。教員免許(工業)取得希望者は、履修することがのぞましい。

7. 教科書、参考文献

●教科書は使わないが、必要に応じて資料の配布、および参考文献の指示を行う。

8. オフィスアワー

なし(非常勤講師のため)

教育相談 Educational Counseling

全学科 2年 後期 2単位

担当教員 菊池 悌一郎

1. 概要

●授業の目的

思春期・青年期は、子どもから大人への移行期として、身体、性、対人関係、社会的役割といったさまざまな側面で大きな変動がみられ、心理的な混乱が生じやすくなる。実際、思春期・青年期は、ライフサイクルの中でも心理障害が生じる危険性が高くなる高い発達期である。ところが、思春期・青年期の心理障害の中には、子どもから大人への発達過程で生じる一過性の心理的混乱と深刻な精神病理と関連する精神障害がともに含まれており、その対応が困難な場合も多い。そこで教育相談のため、適切な理解と対応が可能となるよう、思春期・青年期の心理的発達、心理障害、心理援助について学習する。

●授業の位置づけ

この授業では、まず思春期・青年期発達の特徴を理解し、さらにその心理障害との関連性を明らかにする。また心理障害の具体的な分類とその内容を記述する。後半では思春期・青年期に対する教育相談(心理援助・カウンセリング)の理論と方法についてまとめる。

2. キーワード

教育相談 思春期青年期 発達 心理障害 カウンセリング

3. 到達目標

教育相談のため、適切な理解と対応が可能となるよう学習する。

4. 授業計画

- 1回：はじめに(教育相談の意義)
- 2回：発達とは
- 3回：発達段階
- 4回：思春期・青年期の発達①
- 5回：思春期・青年期の発達②
- 6回：思春期・青年期の発達③
- 7回：思春期・青年期の問題行動・病理
- 8回：不登校、摂食障害、暴力行為、自殺、心理障害への理解(その1)
- 9回：不登校、摂食障害、暴力行為、自殺、心理障害への理解(その2)
- 10回：教育相談の現状と課題
- 11回：教育相談の理論と方法
- 12回：教育相談・カウンセリングの理論と方法(その1)
- 13回：教育相談・カウンセリングの理論と方法(その2)
- 14回：講義の復習・演習
- 15回：試験

5. 評価方法・基準

期末試験で評価する

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

心理学、特に臨床心理学に関する書籍は多くあります。興味のあるものを読んでみてください。また、小説、マンガ、映画などにも人のこころや成長を扱ったものが多くあります。鑑賞をお薦めします。

7. 教科書、参考文献

●教科書：特に指定なし

●参考文献

下山：教育心理学Ⅱ 発達と臨床援助の心理学(東京大学出版会) 371.4/K-28/2

下山：よくわかる臨床心理学(ミネルヴァ書房) 146/S-9

8. オフィスアワー等

メールアドレス：kikuchi@jimmu.kyutech.ac.jp

総合演習 金曜1限
(General Seminar, the 1st period, Friday)

全学科 4年 前期 教職科目 2単位

担当教員 東野 充成

1. 概要

●授業の目的

変動する現代社会と教育のかかわり、現代社会において求められる教師の力量などについて、討論やプレゼンテーションなどを通じて理解を深められるようにする。また、教科指導はもとより、「総合的な学習の時間」などの模擬授業の実践を通して、教職の意義や目的、方法、課題などについて意識を高められるようにする。これら全体を通じて、表現能力やコミュニケーション能力を高めることも、本演習の大きな目標の一つである。

●授業の位置付け

現代社会では、情報化やグローバル化、少子高齢化など、大規模な社会変動が不断に進行している。また、環境問題など社会全体で取り組むべき喫緊の課題も山積している。本演習では、こうした現代社会の諸問題に対処しうる教育の役割、教師に求められる力量などについて、討論や発表などを通して理解を深めていく。また、それらを踏まえたうえで、「総合的な学習の時間」などの模擬授業を行い、現代社会における教職の意義や役割についての考察を深める。

2. キーワード

少子高齢化 核家族化 都市化 情報化 グローバル化 環境問題 教育改革 「総合的な学習の時間」

3. 到達目標

- ①現代の社会変動と教育とのかかわりについて理解を深める。
- ②現代社会における教育や教師の役割について理解を深める。
- ③教育的なコミュニケーション能力、表現能力の向上を目指す。

4. 授業計画

授業は演習形式で行う。各担当番の学生が発表や模擬授業を行い、その後全員で討議する。

- 1回 少子高齢社会と教育の課題
- 2回 家族の変容と教育の課題
- 3回 都市化と教育
- 4回 消費・情報社会における教育
- 5回 グローバル化と教育
- 6回 環境問題と環境教育
- 7回 教育改革の動向（1）
- 8回 教育改革の動向（2）
- 9回 教師に求められる力量（1）
- 10回 教師に求められる力量（2）
- 11回 教科指導実践（1）
- 12回 教科指導実践（2）
- 13回 「総合的な学習の時間」の実践（1）
- 14回 「総合的な学習の時間」の実践（2）
- 15回 まとめ

5. 評価方法・基準

発表内容、模擬授業の内容、演習に対する態度 50%
最終レポート 50%
評価に当たっては、論理的に論が展開できているかを重視する。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

- 教員免許（工業）取得希望者は、履修することが望ましい。
- 授業中に指示する学習指導要領、審議会の答申、新聞・雑誌記事、学術論文、授業記録などを読んでおくこと。
- その他、授業中に指示する参考文献を読んでおくこと。

7. 教科書・参考文献

- 教科書
特に指定しない
- 参考文献
授業時間内に指示する。

8. オフィスアワー

研究室扉の掲示を参照のこと。なお、授業に関する質問等は、下記のメールアドレスまで。

higashi@dhs.kyutech.ac.jp